

2020年度(令和2年度)

大家連定期総会の報告

大野素子

本年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴って、大家連活動も大幅に制約を受けることになってしまいました。

理事活動は4月7日の大阪府による緊急事態宣言とともに、理事、事務局と家族の感染を防ぐために公共交通機関利用をやめ、会議はすべて電話やメールなどによるリモートワークで進めなければならぬことになりました。

新年度定期総会に向けての準備もそのような状況の中で進めながら、最終的には大阪府の5月6日に再度緊急事態宣言継続の方向に従い、正会員が一同に参集していただくことを回避し、当初5月30日に予定していましたが、6月6日に延期し書面による総会とすることと判断させていただきました。議案審議状況は下記の通りです。

- 第1号議案 2019年度(令和元年度) 事業報告
- 第2号議案 2019年度(令和元年度) 決算報告
- 第3号議案 監査報告
- 第4号議案 2020年度(令和2年度) 事業計画
(2020年3月19日臨時総会承認済み)
- 第5号議案

- 2020年度(令和2年度) 収支予算
(2020年3月19日臨時総会承認済み)
- 第6号議案 2020年度(令和2年度) 新役員体制

第1号議案 第2号議案 第6号議案について書面により正会員39名中書面提出30名、第1号議案、第3号議案、第6号議案は賛成29、第2号議案賛成30ですべて承認されたことをご報告いたします。書面送付のご協力ありがとうございました。

例年総会の後に開催している代表者会議は、来る7月17日とさせていただきます。

新しい役員体制は以下の通りです。

- 会長 倉町公之(高槻明星会) 重任
 - 副会長 奥村 勲(寝屋川市 みつわ会) 重任
 - 副会長 大野素子(大阪市 はあぶ東住吉) 重任
 - 理事 藪地悦夫(堺市 美原つくし会) 重任
 - 理事 山本美世子(羽野藤井寺ましの家族会) 新任
 - 監事 堀田久雄(堀田税理士事務所) 重任
 - 監事 誓山京子(箕面市 グループ風) 新任
 - 顧問 遠塚谷富美子
 - 相談役 小出保廣(元 堺市保健福祉センター次長)
 - 退任 理事 木村瑛子
 - 退任 理事 角口通子
 - 退任 監事 奥野 保
- 理事の木村さん、角口さん、監事の奥野さんそれぞれ当事者を抱えながら、大家連の役員として本当にご苦労さまでした。今後もし引き続きよろしく願います。

*お詫びと訂正
理事山本美世子さんの家族会を上記の通りにお詫びして訂正させていただきます。

新任の挨拶

理事 山本美世子

大阪府こころの健康総合センターより教えられ藤井寺保健所に相談に駆け込んで早や19年、羽曳野・藤井寺まつしの家族会に入会して17年です。最初大家連は情報の集まる所と教えて頂き、「若いねえ」「よくやってくれたねえ」と褒められ、嬉しくて今に至ります。2011年から精神保健福祉講座委員、2013年から電話相談員、2015年から2019年理事、理事1年お休みし又復活しました。大家連の皆さんに当事者共々支えてもらいながら10年経ちました。抵抗なく自分が高齢だと自覚するようになって、知人・友人が増えている事も嬉しい。私が少しでも誰かのお役にたつことが出来るかと思える事が喜びであり感謝です。微力ですが皆さんと共に頑張りたいと思います。

あいさつ

監事 誓山京子

自粛の影響で不便と困難を抱えていることと思います。散歩に出ますと空は青く澄み、樹々の緑は鮮やかで、淀川の水も透き通っています。人間の過剰な活動が地球環境に重荷になっていることがうかがえます。コロナウイルスは欧米を中心に大量の感染

者と死者が出て、しかも高齢者に死者が多いです。お金や権威や権力を持っているのは高齢者の一部ですのでパニックになるのも納得です。

さて高齢者といえど大家連も高齢者の集まりになっていきます。毎年、高齢のため、維持できなくなって、解散や休会する家族が増えています。今後の大家連のためには、若い家族が家族会に入会することが必要です。皆様と一緒に知恵を出したいと考えています。

新型コロナウイルス禍における 電話相談業務

新型コロナウイルスの感染拡大が進み始めた3月、電話相談をどうするか協議しました結果、相談員も当事者家族で高齢になっています。更に府下全域から公共交通機関を利用して、大家連事務所まで来ます。コロナウイルス感染の不安は計り知れないものがあるので、3月16日から3月末日まで、相談業務の休止を決め、大阪府の了解を得て休止しました。

4月に入って、感染症の流行が拡がり、大阪府下でも多くの感染者が出る中で、さらに4月末日までの電話相談業務休止を延長しました。4月下旬に5月の相談業務の休止を決めました。5月連休の自粛が功を奏したか、感染拡大は緩やかになってきました。

この間電話相談の留守電に（感染拡大防止のため電話相談は休みますの案内入れていた）多くの電話がかかっていましたので、相談の

結果、公共交通機関を使わずに、事務所まで来れる3人で、月・水・金の3日間相談を受けることにしました。

リピーターの当事者がいます。週3日でも話せる相手ができたととても喜んでいました。この間どこにも話せるところがなく、嬉しいと言ってくれました。取り留めもない話でも、誰かと話せたことで安心が得られたのではないかと思います。電話の最後に「ありがとう」と言って切ります。

この間、親も感染を恐れ、不安の中で過ごしてきました。当事者はそれ以上かもしれない。大家連の電話相談は、家族の悩み相談が主ですが、最近では当事者からの電話が家族からの相談を上回りました。それだけ当事者が話せる場所がないのだと思います。これから電話相談を大切にしていきたいと思います。

新型コロナウイルスの緊急事態は解除されましたが、二波・三波が言われています。気を緩めず予防も忘れず生活しましょう。

(木村瑛子)



家族の思い

新型コロナウイルスに想う

ペンネーム そよかぜ

「コロナの世」になって初めの頃は、コロナ情報を探してテレビやネットにかじりついて

見ていた。そのうち、コロナ情報にさらされることで余計に不安になって疲れることに気づき、テレビを消した。ひとり暮らしをしている娘はコロナ以前から調子をくずして入院中で、親としては心配なような、安心なような複雑な気持ちだった。

コロナで調子を悪くした方もあるだろう。だが一方で、精神の病の人も、そうでない人も等しく何もできなくなったことで、人に会わなくてもいいし、仕事に行かなくてもいい。気持ちに楽になった人もいるだろう。百人百様だろうと思う。もちろんリスクのある現場で働いてくれている方々のおかげで暮らせていることに、感謝でいっぱいだ。

高森信子先生が何度も講演会で言われた言葉「親は安心を与え続けること」。国も「生活は保障します、だから安心して営業を自粛してください、外出は控えてください」と言うてくれたら、国民は安心して自粛できたであろうに。精神の病を持つ人にも、コロナに不安を抱く人々にも「安心」が一番大切なことだと思った。

「コロナ後の世界」はどうなるだろう。学校へ行きたくない人は、行かなくてもオンラインで学習できるようになり、外へ出たくない人は、リモートで仕事ができるようになるかもしれない。「不登校」も「ひきこもり」も、そういう「生き方」として認められる世の中になれば、精神の病の人も少しは楽に生きられるようになるだろうか。

家族会紹介

「もりかど家族の集い」

(守口市・門真市)

会長 中安輝雄

当会「もりかど家族の集い」は2017年10月に発足した守口市および門真市に在住する精神障害者の家族会です。それまで両市には実際に活動している家族会はありませんでした。

私の娘は大阪市内の民間病院に10数年間入院しておりました。その病院には家族会があり私も家族会に参加しておりましたが、月に一度家族会の会合に会議室を無料で使用させて頂いていました。数年前に病院の方針が変わり会議室の使用を家族会に認めないこととなり、区役所の会議室を借用して家族会を開催していました。しかしメンバーの高齢化もあり、一年もたわずに家族会は解散となりました。その後私は門真市役所等で市内の家族会を紹介してもらおうとしましたが、唯一ある家族会は名前があるだけで高齢化により全く機能していないという状況で、門真市に元気な家族会を立ち上げたいと思っていました。

当会の発足には両市を管轄する守口保健所に音頭を取って戴きました。2017年の秋に両市の精神障害者の家族を対象とした「精神保健福祉(統合失調症)家族教室」が守口

保健所で開催され、最終回の教室で参加者に感想・要望・意見を求められました。その中で家族会を創りたいとの要望が多く、日を改めて保健所に希望者が集まり、当会が発足しました。家族会の名称は「もりかど」と「かどま」両市の名称から「もりかど家族の集い」としたものです。当初の会員数は10名でしたが、3年目の現在18名となりました。

家族が元気でなければ当事者の病は良くならない、社会復帰は望めないとの信念に基づき、毎月の定例会や季節ごとの食事でストレスを発散し、元気をつけています。定例会では大家連などの精神保健福祉講座で行政・業界の動向や法令の改変を学ぶと共に、会員同士で気に掛かること、苦勞していること、経験したことなどを話し合っています。見学に来られた方は親族や近隣の方々にさえはばかられた(このこと自体問題ですが)ことを、懇談の場で気にせず話せたことで気持ちが楽になったと喜んで帰られます。

このような活動を市民に知ってもらいたくて、保健所、両市の市役所、社会福祉協議会、相談支援センターなどに当会のパンフレットを配布してPRしており、門真市ホームページの福祉のしおりに当会の名称が掲載されています。また保健所が継続して毎年秋に開催される「精神保健福祉(統合失調症)家族教室」に参加し、当会の活動を紹介しています。

(2020年4月30日)

寝屋川市監禁事件裁判を傍聴して

2017年寝屋川市の自宅内のプレハブ小屋で当時33歳の精神障害があったとされる柿元愛理さんが監禁され凍死という100年以上前の私宅監置の再来を思わせる「異様な悲劇」の報道には驚愕した。しかし、息子と同一世代であり、また事前の情報では息子と同じ医療機関の受診歴があったとのこと、その不幸な死の背景を知りたくて、大阪地裁の裁判員裁判を傍聴した。

公判は2月から3月12日の判決までひと月あまりに合計13回、そのうち5回を傍聴した。判決は愛理さんに人の尊厳に配慮した保護を怠った「保護責任者遺棄致死、被告夫妻二人に実刑13年の懲役」また「精神障害の治療に悩む通常の家族とは『質的に異なる』と断じた。

公判では被告愛理さんの両親、証人としての妹さん、診察した医師二人の生の言葉を聞くことができ、報道だけでは知りえない、また被告夫妻の罪状を責めるだけでは済まない私たちが家族の置かれた現実と重なる事柄を知ることになり、この判決のまま、封印するわけにはいかないと痛感した。

●精神科医療と地域支援

2月20日、初めて傍聴したが、証人は愛理さんを診察した二人の医師であった。

2001年愛理さんが両親と初めて訪れたクリニックM医師はその後愛理さんの病状から、往診を申し出ても、本人と家族の意向でそれがかなわず、児童思春期病棟への入院がよからうと紹介状を書かれた。当時(16歳)やせ細った彼女の姿や声をいまだに鮮明に記憶していると訥々と語られる様子は温かみを感じた。「地域で支える制度にはマンパワーがたくさん必要だ。家族が疲れていると地域サーピスにつながらない。またつなぐ人が少ない。」と証言の中でお話しされたことには日ごろ悩む家族の現実をしっかりと存じて受け止めておられることに感動を覚えた。

柿元さん一家がこの医師の温かい思いのよりに地域医療と支援につながれなかったのは残念でならなかった。

柿元夫妻はM医師からの紹介状をもって公立総合病院児童思春期専門外来へ愛理さんを連れて受診した。病名が確定され投薬治療が始まったが、入院については、この病院での主治医I医師は入院が合うかどうか病棟見学をしてから、また両親の提案をうけて様子を見ながらでよいと考え、結局本人の受診が途絶えがちになり受診は中断し、自宅での監禁相当の閉じられた部屋での暮らしが始まっていった。

この病院の主治医は「振り返ってみれば、入院をすすめるべきでよかったと思います。事後には非常に悔いが残ります。両親の返事を待てばよいと考えたがどういう返事でも入院を進めるべきでした。」と公判中に吐露された。しかし、愛理さんの異常にやせ細った姿は記憶にないと言葉には失望を禁じえなかった。

その後2月26日の公判では父親の柿元泰孝被告は「なぜ入院に同意しなかったのですか。」という弁護人の質問に「自分らは病棟見学もしましたよ。そうしたら『朝、ちゃんと起きて顔を洗う、歯を磨くなどうちでは一通りのことができないと診れない』と言われ、愛理はそれができないからうちでみることにしたのです。」と述べたことの医師の証言との食い違いに違和感を覚えた。この証言に嘘はないと思えた。家族自己責任への迷走が始まる。

この公立総合病院には1999年、私も息子の最初の医師からの紹介状を持ち病院に向かったが受診を嫌がって、予約の時間には行けないことになった。その旨を伝えると「予約時間が守れないなら、この病院は無理なので単科精神病院を受診してください。」と告げられその冷淡な対応に絶望した経験と重なった。その後息子は単科精神病院を受診し、強い鎮静剤を打たれ意識を失い、保護室で身体拘束を受けることになった。一番つらいときに寄り添ってくれる精神科医療はどこにあるのだろう。

●家族の歴史

公判で被告柿元夫妻が述べた事柄からは結婚、出産、子育ての悩みと夫妻の抱える複雑な家庭の事情を知ることになった。

二十歳前(推定)の婚前妊娠と、よりよい報酬を求めて九州から寝屋川にたどり着くまで幾度も転職、転居とさらに由加里被告の母親の扶養など、厳しい家計とたくさんの事情を抱えて孤立しがちな、若い母親と父親二人で抱え込んだ迷走があった。

「娘を可愛いと思えなかった。」「どんどん悪

い母親になっていった。」と由加里被告は自身に客観的だ。愛理さんの幼稚園時代から小学校高学年まで居住地では由加里被告は幾度かの児童相談所を訪れている。周りになじまない愛理さんに「本人の好きにさせてやってください」という答えを、「うわべだけの相談」と由加里被告は記している。

愛理さんも由加里被告もまめに文章を残している。愛理さんは小5で枚方市から寝屋川市に転校した際、学級の子供たちが説明して授業が進められる「自分調べ」という自主学習を取り入れていることまで克明に記述している。聡明さには驚いた。この長所は家族には受け止められなかった。この長所は家族交換日記を作り、家族仲良く暮らそうとする気持ちで伺えた。しかし、ほとんど医療とつながらないまま、家族だけの懸命な努力はもろく、結局プレハブ小屋の暮らしの悲劇に終わってしまった。

この裁判に前後して知ったことであるが、日本で先駆的に脳科学の知見を発達障害治療に役立てている加藤進昌医師は「他者との協調にあまり関心のないアスペルガー症候群の子たちの行動の異質さに、時には家族からのネグレクトや虐待の被害にあうことがある」との理解を示される。昭和大学付属烏山病院には家族会も近く組織されるとのことであった。正確な診断と、家族が自己責任で孤立することがないよう医療と地域行政が率先して対応する家族支援に期待してやまない。

(文責 大野素子)



当事者の思い

新型コロナウイルスに思う

佐々木邦昭

今まさに新型コロナウイルスで全世界中が翻弄されている。

アメリカでは何十万人もの感染者がでて何万人もの死者がでてい

る。イタリヤ、イギリス、フランス等ヨーロッパ中が何万人もの人が死に感染者も数多くでている。

本家本元の中国もそう、韓国もそうである。今は両国ともいったんおさまっているが、まだこの先は再度ぶりかえすかわからないのが実態である。これは本当に世界をまきこんだ大惨事である。

私も糖尿病なので感染したら死ぬかもしれない。外出から帰ると手洗いも3分以上し、うがいもする。まさに死ととなり合わせの生活である。

日本でも例外ではない。一日に二百人以上の感染者が出て一日に何人も死者も出ている。多くの生活上の規則があり、緊急事態宣言が出ているのが今の東京での実態である。

なぜ神はここまで人類を苦しめるのか、人間は本当に弱く多くの人が簡単に死んでいる。

全国でも多くの死者が出ている。神はただそれをながめている。

私はおもう。かつてのペストやコレラが大

流行をして多くの人があつけなく死んだように今回もそのシナリオがおこなわれている。そんな中で感染していない人にも別の苦悩がおそいかかっている。休業要請に従っている人々だ。多少の支援があってもおいつかないし何もならない。いつコロナウイルスが終息するかはわからないからだ。

日本の経済も同じく心配でならない。

又私達障害者が一番心配するのは、差別である。感染した人を悪者扱いにして、家族やその人を差別する。また子供が感染した親を知りその子供をいじめ差別する。これは決して許されてはいけないし、やめさせなければならぬ。

その反対に感謝するのは、医療従事者のみなさんである。死と背中あわせに見えない敵と斗っておられる。本当に頭が下がるおもいである。

神はペストやコレラの大流行の時と同じくそれなりのいけにえを要求する。その神はキリスト教でもないし日本の神さまではない。邪悪な人間に罰を与える神である。

人間は豚の肉や牛の肉や魚などの肉を食べ命を殺しそれを食べる。でもそれは決して悪い事でもない。が今度はコロナに命を奪われる。

でもそのせいでペストやコレラのようなものが人間をおそう。今回はコロナウイルスだ。

科学者や医師はひっしになってコロナの特効薬をつくらうとしているが、それははるか

人知をこえた処にある気がする。

今はまだコロナに笑われてそれは出来ない。

そんな中コロナは笑うようにペストやコレラの時のように多くの死者を出している。

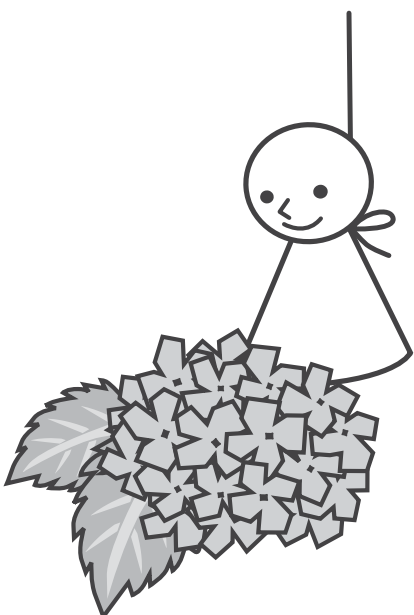
多分もう少しすればいつかコロナは終息するであろう。でも何十年か何百年の時をへて新しいコロナに変わる別の何かがやってくる。そしてまた今回のように多くの死者をつれていく事だろう。

今回も人類はコロナにうち勝つだろう。でもいづれ又福島原発事故やつなみや地震で人は邪悪な神にためされる。

キリストさえ原罪といい、人類を罪深いものだという。父や母や子供をなくされた方々には本当に申し訳ないし同じ人間として同情の念を申し上げたい。どうにか生きのびねばならない。

でも人間ゆえにためされる。無差別にだ。でも最後に人類はコロナにきっと勝つだろう。

(2020年5月20日)



2020年度 精神障がい者社会参加支援事業 精神保健福祉講座(案)

実施日時	テーマ	講師所属	場所
① 7月11日(土) 13:30～	福祉の社会資源を学ぶ 「生活保護も含む」	社会福祉法人 たんぽぽひろば 理事長 小出保廣氏	アネックスパル法円坂 6階12号室
② 8月22日(土) 13:30～	「オープンダイアログを 実践する」	兵庫県立大学 准教授 川田美和氏	アネックスパル法円坂 6階12号室
③ 9月13日(日) 13:30～	「地域で暮らすために精神医療 は精神医学は何か出来るのか: 妊娠出産から自動車運転まで」	名古屋大学大学院医学系 研究科 教授 尾崎紀夫氏	クレオ 大阪東ホール
④調整中	8050問題を考える		
⑤ 11月14日(土) 13:30～	「親あるうちに備えよう 親なき後」	「親亡き後」「親ある間」の相談室 主宰 officeニコ代表 藤井奈緒氏	エルおおさか 6階大会議室
⑥12月21日(月) 13:30～	「精神医療を正しく理解するた めの教育の必要性について」 ～何故日本では精神疾患の教育が 進まないのか、世界はどうか～ 大家連50周年記念講演	愛知県立大学 山田浩雅氏	エルおおさか エルシアター
⑦1月9日(土) 13:30～	「発達障害とは何か、 共に暮らす為に」	昭和大学発達障害医療研究所 所長 加藤進昌氏	クレオ 大阪東ホール
⑧2月13日(土) 13:30～ 調整中	当事者の暮らし報告	当事者6人	アネックスパル法円坂 6階12号室

* 講座順序に関しては、講師等の調整のため前後する場合があります。

* 参加については、ファックスによる申し込みが必要です。(講座チラシ、ホームページを参照)

精神障害を持つ方の 配偶者・パートナーの集い

家族会は親の立場の方が多いです。そのため、配偶者・兄弟姉妹・子と立場が違くと、話に入れないなどの意見も聞きます。

日時 7月12日(日) 13:30～15:30

8月9日(日) 10:00～12:00

9月13日(日) 13:30～15:30

10月11日(日) 10:00～12:00

場所 アネックスパル法円坂4階
大家連事務所

申込 不要(気軽に)参加ください

※大阪府下に警報が午前10時に
出ている場合は休会とします。

おしゃべりカフェのお願い

いろいろな人が気軽に集い、おしゃべりすることを第一としますが、精神福祉に関する制度や法律を自ら学び、考える力を育成することも目指しています。

日時 偶数月の第2日曜日

午後1時半～4時

(8月は休んで10月から)

場所 アネックスパル法円坂4階

大家連事務所

申込 不要(気軽に)参加ください

※大阪府下に警報が午前10時に
出ている場合は休会とします。

クイズです

次のカタカナ語を良く聞きますが、言葉の意味は？

- ① オーバーシュート ② クラスタ
③ アウトソーシング ④ エビデンス

解答例

- ①株主・債券・金利・為替の相場が売り、買いのいずれか一方方向に行き過ぎた状態になること。
②花やアロマなどの房の意。同種のものや人の集まり、群れ。
③仕事を担う人やサービスを、契約によって外部から調達し、企業活動に生かす経営手法。
④証拠、根拠、証言、形跡などを意味する英単語。

※解答は上記以外にもあります。一度、調べて見たら面白いかも？

昨年からだいかれん誌の編集作業に参加させて頂いています。
昨年、娘が不安定で思い悩んでいた時に病院を通じて家族会に出会い、多くの先輩方のアドバイスを頂くことで気持ちが出来になりました。(娘の状態は、良くなった！と思ったら、また悪くなる・・・と3歩進んで2歩下がるの状態ですが)
まだまだ勉強不足ではありますが、この編集作業を通じて病気を持つ親として成長していければと思っています。
そして、同じ想いを持つご家族のお役に立てるように精進していこうと思います。

(編集委員 堀居 努)

編集後記

□ □ □ □ □ □ □ □ □ □

2020年度の賛助会費報告

年会費をいただきました。ありがとうございました。

賛助会費	(1口3千円/年)として
27人分	27口

(寄附)

大家連へのご支援、大変ありがとうございました。

氏名	地域	寄附
匿名		100,000円
稲垣診療所	岸和田市	10,000円
森 陽子	四条畷市	10,000円
東香里病院	枚方市	30,000円
京谷クリニック	大阪市	10,000円
やまもとクリニック	大阪市	10,000円
中井邦秀	東大阪市	20,000円
前久保クリニック	大阪市	10,000円
うへのメンタルクリニック	大阪市	10,000円
西口診療所	大阪市	10,000円
中西クリニック	大阪市	10,000円
東 泰敬	泉佐野市	1,000円
クスベ医院	岸和田市	10,000円
医療法人 遊心会	大阪市	10,000円
吉田キヌ子	寝屋川市	3,000円
山本幸弘	大阪市	27,000円
(株)マツモト	大阪市	30,000円
東出郁子	寝屋川市	10,000円
かく・にしかわ診療所	大阪市	10,000円
福家 有喜生	高槻市	4,000円
東浦 勲	寝屋川市	3,000円
小林 温	大阪市	2,000円
柏木美和子	八尾市	30,000円
衛藤房子	大阪市	3,000円
仲宗根康江	吹田市	7,000円
匿名	堺市	10,000円

(令和2年2月6日～令和2年6月3日)



2020年度の共同募金配分金 54.1万円が決定しましたのでお知らせします。
共同募金の寄付による配分金でだいかれん誌の発行が成り立っています。
寄付下さった皆さまに心よりのお礼申し上げます。
又、会員の皆さまには赤い羽根共同募金へのご協力をお願いします

編集人 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会 会長 倉町 公之
連絡先 〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 アネックスパル法円坂 (A棟4階)
Tel 06-6941-5797 Fax 06-6945-6135
ホームページ daikaren.org だいかれん で検索もできます

振込先 郵便振替 00970-4-72221 公益社団法人大阪府精神障害者家族会連合会

定 価 1部100円 (大家連家族会費には購読料を含む)

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4階

